

SHIN CLUB 300

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

ありがとうございます 創刊 300 号を迎えました

1999年10月、弊社は倒産した前身会社の志を引き継ぎ、この渋谷の街で創業しました。抱えていた17現場の仕掛かり工事を完成させ、その後も一つひとつの建築に愚直に取り組んでまいりました。おかげさまで昨年10月に25周年を迎え、創業時と比べて社員数・売上規模も倍以上となりました。

本紙ニューズレター「SHIN CLUB」につきましては、2000年4月より発行を開始し、お客様や設計事務所などの取引先にお送りするほか、各工事現場にて掲示配布をしており、一昨年にはメールマガジンでの配信をスタートさせております。初号創刊時は、社内にあるプリンターで限られた枚数のみ発行していた本紙ですが、その10年後には500部発行となり、25年後の今日に至っては、紙面・メールマガジン合わせて1,950部発行となりました。少しずつ広く皆様のお目に触れるようになり、この度300号を迎えました。

創刊以来一度も休むことなく毎月継続発行できたことは、我ながら大変誇らしく思います。弊社の経営ビジョンは「こだわり建築の追求」であります。皆様の想いが詰まった「デザイン性と施工難易度が高い建物」をこれからも造り続け、本紙にてご紹介し続けることで、微力ながらも建築の魅力、施工の面白さとやりがいを伝えていければ幸いです。施工現場の働き手を増加させ、社会的地位向上を目指すことが弊社の志であり、それこそが建設業界の成長発展に寄与する社会貢献であると自負しております。

これからも渋谷を拠点に施工に特化してまいります。皆様方が目指すデザイン性・機能性に優れた建築のトップパートナーになれるよう施工技術を磨き続けます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

2025年 3月
株式会社辰 代表取締役 岩本 健寿
広報チーム 一同

今号は、創刊300号を記念して、弊社で大変お世話になっている田邊曜建築設計事務所の田邊曜氏とツチヤタケシ建築事務所の土屋毅氏、ANDO Imagineering Groupの安藤耕作氏にお話を伺いました。みなさんの考える、未来に残る建築とは。

—お三方それぞれのキャリアを振り返り、特に印象に残っているプロジェクトを教えてください。

安藤：最も印象に残っているのは、独立前に携わった初めての現場です。今から20年近く前になりますが、私が構造設計担当者、本日お越しの土屋さんが意匠設計の担当者として、一緒に仕事をしました。柏市のグランディハウスのときも一緒でしたよね。それ以来、長い付き合いになります。

土屋：お互いにまだ20代前半のころでしたね。

1、2週間に1回は会って、打ち合わせも兼ねて建築の話をよくしていました。独立後は2人とも忙しくてなかなか会えませんが、それでもお互いの設計した建物はいつも気にしており、街中で名前の記載された法令看板を見かけると、「見かけたよ」と写真を送り合っています(笑)。

安藤：私の事務所は構造設計と意匠設計の両方を手がけており、私自身構造設計者であるため、力の流れや大きさを読めるからこそできるデザインを追求しています。例えばモーメントダイアグラムから建物の形を作ったり、柱も単なる四角ではなく四隅を削って十字形にしたり。今回、辰さんと一緒に取り組んでいる「渋谷XROSS」もその1つで、構造的に特殊な建物となっています。

田邊：建物の形状を作っていく際、もちろん構造面にも留意しているのですが、意匠設計がメインですと、どうしても考えが及ばない部分が生じてしまいます。その点、意匠も構造も扱っている安藤さんの事務所は、大きな強みを発揮していると感じました。

安藤：意匠と構造は、彼氏と彼女みたいなところがあって、お互いが相手のことを想わないと良い関係が成り立たないと思うんですね。私の事務所には意匠設計者もいますが、外部の方と仕事をする機会も多く、うまくコラボレーションしながら設計の幅を広げています。ある意味、浮気性なのかもしれません(笑)。何よりも私は一度おこなった計画やデザインは繰り返したくない性格で、基本的な

原理を土台にしつつ、常に新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。ただ、建築の形を生み出すのはあくまでも意匠設計者の仕事であり、それを構造的な面からおもしろくしていくのが、自分の役割だと思っています。



渋谷XROSSパースデザイン。2025年9月竣工予定



<https://shibuhara-xross.com/>



Hikalu Tanabe



Takeshi Tsuchiya

—意匠と連携して建物をグレードアップさせていくのですね。新しいアイデアの種は、どういったところからインプットしているのですか。

安藤：構造の理論書を読みあさっているほか、海外で採用されている建築の構造なども勉強してきました。例えば、モーメントダイアグラムがそのままファサードの形になっているのは、イタリアなど地震があるヨーロッパの国では割とよくある構造です。この形がおもしろいのは、基礎は最短で結んだ方が効率的で、掘削量が3分の2で済んでしまう点。そのような事例を幅広く参照しながら、力学的な知識をベースにして「こんな建物が作れたら、おもしろいよね」という話を、いつもスタッフ同士でしています。ただし、どれだけおもしろいアイデアが思い浮かんだとしても、辰さんたち施工者のみなさんの協力なしには成り立ちません。

—土屋さんはどういったプロジェクトが印象に残っていますか。

土屋：最近のものでいうと、「GREEN TERRACE 表参道」があげられます。コンペで選ばれたのが5年前で、2024年12月に完成しました。それまでは資料作りからプレゼンテーションまで、すべてを私1人でおこなっていましたが、プロジェクトがスタートしたぐらいの時期からスタッフも増え、仕事もたくさんいただけるようになりました。この建物をきっかけに周りの環境が大きく変化したという点で、非常に感慨深いプロジェクトです。設計をおこなう際に私が理想としているのは、シンプルかつ本質をついたデザイン。子どもの絵本は、平易な言葉で表現されているにもかかわらず、深いテーマを読者に伝えていきます。そのような建築のあり方を、私自身の設計においても実現させていければいいなと思っています。

安藤：渋谷のハンズの並びにある建物も、土屋さんの設計でしたよね。娘と一緒にハンズへ出かけたときに、かなりインパクトのある、カッコいい建物があることに気が付いて、看板を見たら土屋さんの名前が書かれています。

土屋：「渋谷エメラルドビル」ですね。このビルに取り組んでいるときはコロナ禍の最中で、いつもにぎわっている渋谷の街を出歩く人はほとんどいませんでした。私はビルのなかに幼稚園を作るプロジェクトにも携わっていて、たくさんの方から「窓は開かないんですか」と聞かれたのが強く印象に残りました。機械換気をおこなっているため機能的には十分ですと答えましたが、よく考えてみると、そこには心理的な息苦しさがあることに思い当たったのです。そうした背景もあって「渋谷エメラルドビル」の窓は全部、手動で

The story of three future masters



Kosaku Ando

開閉できるようになっています。さらに雨を避けたり、日差しを遮ったりするための庇を各階に設けて、印象的なファサードに仕上げました。仮にテナントビルの用途で使われなくなっても、今度は住居として使用してもらえるような、永く人々に愛される建物になってほしいと願っています。

安藤：土屋さんの造る建物にはいつも刺激をもらっています。お互い近いエリアでの工事が多いことから、身近にそういった相手がいるとモチベーションも上がりますね。

土屋：構造設計と意匠設計なので、設計のアプローチこそ異なりますが、異なるからこそ高めあえる部分が多いのが良いですね。

—田邊さんはいかがでしょうか。

田邊：これまでを振り返ってみると辰さんと共同しておこなったプロジェクトが3つあり、そのどれもが非常に印象深く、意義のあるものだったと感じています。独立後、最初に取り組んだのが「旭町診療所」。病院は誰しも不安な気持ちになる場所だと思うので、入り口で身構えずに、気づいたら中に入っていたという感じで、外から中へと連続していくような空間を考えました。外からは小さく見えますが、なかに入ると空間の広がりを感じられるようにしています。千葉はエリア外とのことでしたが、辰さんには特



渋谷エメラルドビル

別に引き受けていただいて。おかげさまで無事に完成させることができました。次に手がけたのが荒川技研工業のショールーム「TIERS GALLERY」です。上階のギャラリーへいかに人を引き込むかということで、空間を突き抜けるような大階段を作りました。野老朝雄さんにワイヤーを使ったファサードのデザインを、岡安泉さんに照明のデザインを、それぞれお願いしました。本当にいろいろな人と関わりながら1つの建物ができていくのを実感しています。3棟目に辰さんと取り組んだのが、2024年グッドデザイン賞をいただいた「ZYGZAG」です。建物のファサードとジグザグ形状の外部階段を一体化させたデザインとしました。

土屋：「ZYGZAG」はすぐ前の道を毎週のように通っており、いつも思わず階段を上がっていきそうになります(笑)。

安藤：建っている場所もすごくいいですね。

田邊：通常階段を内部空間と一体化させるのは、かなり難易度が高いのですが、辰さんがデザインの意図を理解したうえで施工してくださって。私は建物の意匠だけでなく、構造や設備、機能などの全部が一体となったものにすごく興味がありました。結果、そういった建物はたくさんの人にとって魅力的な場所になるのではないかと思います。それをこの建築で実現できたのではないかと思います。

—みなさんは今後、こういった建築に取り組みたいとお考えですか。

土屋：漠然とした夢ではありますが、駅か図書館、どちらかを設計してみたいと思っています。私は素朴で日常的な風景が好きで、よくカメラに納めています。昔ながらのものを参照して自分なりに解釈し、それを設計に活かしていきたい。新しくも古くもない、本質的なもの。新築なのに昔からその地に建っていると感じられる、そのような建築を作っていけたらいいなと考えています。

田邊：私は「旭町診療所」の隣に自らの事務所を併設予定です。そこに地域に開いたオープンなスペースを作り、何か新しい関係性が構築できないかと考えています。敷地のなかだけではなく、もう少し街や都市的なスケールにまで視点を広げて踏み込んでいければ、息の長い建築ができるのではないかと妄思を膨らませているところです(笑)

安藤：その建物に携わった職人さんが「この建物は自分がつくったんだよ」と子どもに言えるような建築を作りたくて。様々な立場を超えて、みんなでこの建物をやったのだと、誇りを持って言ってくれる建築を作りたいなと思っていますね。

田邊：1人でできることは限られていますが、みなさんが質の高い建築を意識していけば、都市や街の風景も変わっていく可能性があると思います。

—未来へとつながる建築を、我々施工者も一緒になって目指していければと思います。本日はありがとうございました。



グッドデザイン賞を受賞したZYGZAG

田邊 曜 (たなべ ひかる)	土屋 毅 (つちや たけし)	安藤 耕作 (あんどう こうさく)
2002年 日本女子大学家政学部住居学科卒業	1977年 千葉県生まれ	1999年 大阪の美容学校 入学
2003～2004年 Renzo Piano Building Workshop 研修	1999年 日本大学法学部 卒業	2003年～ JSD 勤務
2005年 早稲田大学理工学部修士課程修了(現：創造理工学部)	2002年 工学院大学建築学科 卒業	2011年 MIDAS IT 勤務
2005～2012年 伊東豊雄建築設計事務所 勤務	2002～2012年 山本・堀アーキテクト 勤務	2015年 安藤耕作構造計画事務所 設立
2014年 hkl studio 設立	2012年 株式会社 ツチヤタケシ建築事務所 設立	2021年 ANDO Imagineering Group 改称
2017年 田邊曜建築設計事務所 改称	2015年 株式会社 に改組	構造と建築の設計を開始

TOPICS/INFORMATION

麦島建設 現場見学会 2025年2月10日(月)

— 大阪・関西万博 クウェート共和国 パビリオン建設工事 —

開催までおよそ1か月となりました、「EXPO 2025 大阪・関西万博」。「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに掲げ、最新テクノロジーや人々の幸せを描いた未来像について体験できる、没入型の展示が注目を集めています。また、約150の国と25の国際機関が参加し、各国のパビリオンでは最新技術や文化が紹介される予定となっています。



麦島建設 作業所所長 中村様の説明を受けてから場内見学へ

そんなEXPO 2025 大阪・関西万博に、今回出展するクウェート共和国のパビリオン建設を、弊社グループ会社である麦島建設が請け負っております。また弊社からも出向社員としてお手伝いをさせていただいていることから、麦島建設のご厚意により、開催前の建設現場見学会が実施されることとなりました。セキュリティ上、限られた人数でのご訪問です。



テントの張られた屋根

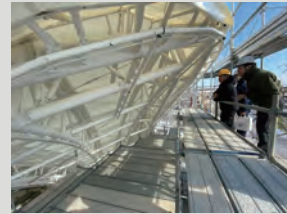
各国のパビリオン建設が急ピッチで進んでいるなか、麦島建設の現場では鉄

骨下地にテントを掛けた屋根工事や外構工事が進んでおり、住宅とは違うスケール感と規模に社員たちは終始興味津々。場内の案内役である菅野係員への質問が止まりませんでした。

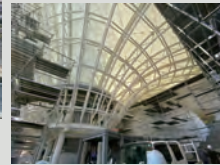


1月に開通となった「夢洲」駅にて

その他、敷地外からでありませんが、他国のパビリオン建設の様子や、藤本壮介氏の手掛ける「大屋根リング」などを見学。開催への期待が高まる貴重な現場見学会となりました。



テント下地の鉄骨を間近で見学。スケールの大きさが分かる



お忙しいなかにもかかわらず、ご対応いただきました麦島建設の皆様、誠にありがとうございました。

「MAP」新築工事 地鎮祭 1月23日(木)



2023年12月に竣工した元麻布のMRP新築工事に続く第2弾。今回は南青山に住宅が誕生します。

構造/規模: RC造/地下1階・地上3階
用途: 一戸建ての住宅
設計: SAAD/建築設計事務所
施工担当: 早川・竹澤
完成予定: 2026年6月

「本郷322プロジェクト」新築工事 地鎮祭 1月30日(木)



神宮前、南麻布、市谷左内町、三田、若松町、薬王寺に続くシリーズ作品。新たに本郷にてプロジェクトが始まります。

構造/規模: RC造/地上10階
用途: 共同住宅・物販店
設計: 木下道郎ワークショップ
施工担当: 郷、川和
完成予定: 2026年5月

「小石川N邸」新築工事 上棟式 2月5日(水)



無事故無災害で上棟を迎えることが出来ました。職人さんも式に参加し、建て主様から労いのお言葉いただきました。完成まで緩まずまいります。

構造/規模: RC造/地上3階
用途: 一戸建ての住宅
設計: (株)石原・山口計画研究所
施工担当: 大友・小松
完成予定: 2025年7月

「神南1丁目(仮称)神南1丁目計画」新築工事 安全祈願祭 2月20日(木)



計画地裏にはJR線、前面には渋谷消防署があるため、交通整備等安全に気を付けながら進めてまいります。

構造/規模: S造/地下1階・地上8階
用途: 店舗
設計: (株)09.design
施工担当: 井田・マウン
完成予定: 2026年2月

「神宮前2丁目プロジェクト」新築工事 安全祈願祭 2月26日(水)



近くに高校等があるため、ご迷惑にならないよう、近隣様のご協力も賜りながら進めてまいります。

構造/規模: RC造/地下1階・地上3階
用途: 専用住宅
設計: (株)小川晋一敏建築設計事務所
施工担当: 鍋島
完成予定: 2025年12月

「神宮前3丁目プロジェクト」新築工事 安全祈願祭 2月26日(水)



弊社が得意としている神宮前エリアにて、事業主様にお喜びいただけるよう工事をおこなってまいります。

構造/規模: RC造/地下1階・地上4階・塔屋1階
用途: 店舗
設計: AIUEO STUDIO (株)
施工担当: 谷田・伊藤
完成予定: 2026年4月

編集後記

・いつも小紙をご一読いただきまして、誠にありがとうございます。おかげさまでSHIN CLUBは創刊300号を迎えることができました。初号創刊から25年間、毎月欠かさことなく発行できたことは、ひとえに皆様からのご寵愛とご協力の賜物だと感じております。ささやかな内容ではございますが、これからもSHIN CLUBを宜しくお願い申し上げます。

(株)辰通信 Vol.300 発行日 2025年3月10日

編集人: 本間夏来/土屋祐一郎 発行人: 岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。

バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

